



レクサンド市との姉妹都市提携30周年を迎えて

昭和62年に遠く海を隔ててスウェーデン王国レクサンド市と当別町が、恒久的な交流の約束として、姉妹都市の提携を結んでから満30年を迎えました。

以来、今日まで、数多くの方が相互に両市町を訪れ、経済、文化、青少年交流等が長きにわたり行われ、その間、平成20年度には当別町がレクサンド市との姉妹都市交流の実績が評価され、姉妹自治体優良表彰総務大臣賞を受賞し、今年度はレクサンド市が日本の外務大臣表彰を受賞いたしました。これらの表彰は、これまでの両市町の交流活動が認められた証であり、大変喜ばしいことです。

このように、両市町の友好関係が着実に実を結んでまいりましたのも、たくさんの関係者の皆様のひたかたならぬ熱意とご尽力の賜物であり、あらためて、心から深く感謝を申し上げます。

本年、9月には、「北欧の風 道の駅 とうべつ」がオープンし、多くの方が訪れています。「北欧の風」という冠には、レクサンド市との30年という長い交流を通じた当別町の熱い思いが込められています。

この30年の姉妹都市の歴史は、私たちにとってかけがえのない財産となつて、深く心の中に刻まれ、後世に引き継がれていくことを思うと感慨深いものがあります。

この姉妹都市30周年を契機として、今後の両市町の発展と更なる友好関係が深まることを祈念いたします。

平成29年12月

当別町・レクサンド市姉妹都市提携
30周年記念事業実行委員会
実行委員長 山田 明



30周年記念事業内容

10月26日(木)

15:30 表敬訪問(当別町役場)

17:30 ウェルカムパーティー(ふとみ銘泉万葉の湯)

10月27日(金)

10:00 モニュメント除幕式(北欧の風 道の駅 とうべつ)

13:00 当別町内視察

「学校コース」 西当別中学校 → 北海道医療大学

「産業コース」 JA 北いしかりライスターミナル

→ 当別神社 → 北海道医療大学

「福祉コース」 当別長生会 → 当別神社 → 北海道医療大学

10月28日(土)

9:00 記念式典(西当別コミュニティセンター)

10:00 航空自衛隊北部航空音楽隊コンサート

(西当別コミュニティセンター)

12:30 ディスカッション(西当別コミュニティセンター)

14:45 札幌市内視察(アリオ札幌)

18:30 夕食パーティー(サッポロビール園)

10月29日(日)

8:30 スウェーデンヒルズ散策(スウェーデンヒルズ)

10:00 文化交流(西当別コミュニティセンター)

13:00 スポーツ交流(パークゴルフ)(あいあい公園)

(各種スポーツ)(総合体育館)

17:00 フェアウェルパーティー(田西会館)

10月30日(月)

5:00 お見送り(当別町役場)

30th Anniversary



表敬訪問 *Courtesy Visit*

10月26日(木) 15:30 ~
当別町役場 (参加者120名)

当別駅前大通の沿道で町民が手旗を振っての歓迎の中、訪問団が当別町役場を訪問しました。宮司町長の歓迎の挨拶、訪問団の代表としてウルリカ・リリエベリ市長が挨拶を行い、記念品としてレクサンド市からは6種類の技法で編み込まれた織物であるタペストリーとマイストングの先端に飾り付ける風見鶏が、当別町からはレクサンド市内の日本庭園などに植樹する桜の苗木30本が交換されました。



- ◆レクサンド市からタペストリーの贈呈。
- ◆ウルリカ・リリエベリ市長の挨拶。
- ◆宮司正毅町長の挨拶。
- ◆当別町からレクサンド市へ花束の贈呈。
- ◆レクサンド市からマイストングの先端に飾り付ける風見鶏の贈呈。

Welcome Party

ウェルカムパーティー

10月26日(木) 17:30 ~
ふとみ銘泉万葉の湯 (参加者150名)

訪問団、ホストファミリー、記念事業関係者によるパーティーが開催されました。歓迎ムードが漂う中で行われたアトラクションでは、さくら琴の会による大正琴の演奏が披露され、訪問団の関心を集めていました。ホームステイを行う訪問団は、ウェルカムボードを持ったホストファミリーから大歓迎を受けていました。また、会場内に設置した緑日コーナーでは、多くの訪問団が射的や水ヨーヨー釣りなど日本の伝統的なお祭りを体験し、パーティー終了後には温泉を楽しむ訪問団の姿も見られました。





Leksand Tobetsu

Avtäckningsceremoni i samband med jubileet för att fira Tobetsu-Leksands Vänortsavtal 30 år



モニュメント除幕式

10月2日(金) 10:00 ~
北欧の風 道の駅 とうべつ (参加者170名)

レクサンド市と姉妹都市提携 30 周年を記念し、北欧の風 道の駅 とうべつ に設置された記念モニュメント(マイストングの土台)の除幕式が行われました。除幕式には記念モニュメントを寄贈していただいた㈱新和ホールディングス代表取締役社長 新井修氏にご出席をいただき、除幕を行った後、レクサンド市と当別町双方の有志によるマイストングの立ち上げを行いました。マイストングが立ち上がると会場からは大きな拍手と歓声が上がりました。

その後、道の駅で多くの来場者を前に訪問団音楽学校生徒による演奏が披露されました。



◆寄贈された記念モニュメント(マイストング土台)。◆マイストングの立ち上げ。◆当別町のイメージキャラクター「とべのすけ」と記念撮影する訪問団。◆道の駅にて訪問団音楽学校の生徒による演奏。◆道の駅で当別町の物産品を購入する訪問団。◆記念モニュメントの前で記念撮影。◆レクサンド、当別それぞれの有志によるマイストングの立ち上げ。



町内視察

10月27日(金) 13:00~

(学校コース 39名) 西当別中学校→北海道医療大学
(産業コース 9名) JA北いしかりライスターミナル→当別神社→北海道医療大学
(福祉コース 12名) 当別長生会→当別神社→北海道医療大学



西当別中学校にて書道



西当別中学校にて給食



JA北いしかりライスターミナル視察



当別長生会視察



当別神社視察



北海道医療大学視察



Touring the town



訪問団を3グループに分けて町内視察を行いました。学校コースは、西当別中学校で給食体験、全校集会で西当別中学校やアレクサンド高校などの紹介、訪問団音楽学校生徒による演奏も披露されました。産業コースと福祉コースは、それぞれ町内の施設を視察し、当別神社では一部の訪問団が神職の装束を身にまとうなど貴重な体験をしました。すべてのグループが視察を行った北海道医療大学では、施設見学の後、学生によるYOSAKOIソーランの演舞が盛大に披露され、訪問団から大きな拍手が上がりました。



Ceremony



記念式典

10月28日(土) 9:00 ~

西当別コミュニティセンター(参加者230名)

主催者を代表して宮司町長、訪問団を代表してウルリカ・リリエベリイ市長からの挨拶の後、駐日スウェーデン大使マグヌス・ローバック閣下、和田義明衆議院議員、辻泰弘北海道副知事から来賓挨拶をいただきました。その後30年の交流に功績のあった方々を対象に感謝状の贈呈が行われました。式典終了後には、30周年を記念したアトラクションとして航空自衛隊北部航空音楽隊によるコンサートが行われました。



感謝状贈呈者

ベッティル・ダニエルズ 様

<Bertil Daniels>

元レクサンド市長
姉妹都市提携調印時の市長

ボー・ペッテルソン 様

<Bo Pettersson>

前レクサンド市長

泉亭 俊彦 様

<Toshihiko Sentei>

前当別町長

竹田 和雄 様

<Kazuo Takeda>

元当別町議会議長

河村 佳男 様

<Yoshio Kawamura>

第5代当別・レクサンド都市交流協会会長

新井 修 様

<Osamu Arai>

株式会社新和ホールディングス代表取締役社長
「北欧の風道の駅とうべつ」敷地内に
記念モニュメントを寄贈

山崎 泰博 様

<Yasuhiro Yamazaki>

株式会社ロイズコンフェクト代表取締役社長
記念事業への協賛

God dag, välkomna till Tobetsu!



本日、はるばるスウェーデン王国レクサンド市よりウルリカ・リリエベリイ市長をはじめ60名の訪問団の皆様をお迎えして、レクサンド市と当別町との姉妹都市提携30周年記念式典を開催できますことは、この上ない大きな喜びであります。

特に、30年間絶え間なく姉妹都市交流に熱意を注がれ、交流の輪を拡げてきて下さいました先輩諸氏、並びに関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます次第です。

そして本日、駐日スウェーデン大使 マグヌス・ローバック閣下、衆議院議員 和田義明 様、並びに北海道副知事 辻泰弘 様、をはじめとする来賓各位の皆様方には大変御多忙中、御臨席を賜り厚く厚くお礼申し上げます。

今年もノーベル賞が発表され、授賞式の季節となりました。アルフレッド・ノーベルの遺言に基づき、世界に貢献した学問と文化を普遍的に評価し讃えようとするその姿勢、先見の明を持つスウェーデン人の独創性と志の高さは、世界中からの尊敬と深い憧れを集め、人類の進歩と平和へのモチベーションとなっています。

気候風土がお互いに似ているということから始まった交流ではありますが、スウェーデンの方々と30年にもわたり交流を続けてこられたことは、自然への愛着や伝統を重んじる心が相通じ、お互いに意気投合し喜びあってきたからと言えます。

このことは当別町民にとってこの上ない誇りであり、自信につながっております。

昨日、当別町のランドマークとして9月にオープンしたばかりの「北欧の風道の駅 とうべつ」において、夏至祭のシンボル「マイストング」を30周年の交流の証として、皆さんと共に立てることが出来たのは、望外の喜びであります。

このような記念行事を皆さんと共に祝い、本日の式辞を述べさせていただくことは、私にとりましては生涯忘れられることが出来ないうであります。

結びに、御臨席を賜りました御来賓各位と、喜びをとにもするため駆けつけてくださいました町民の皆様衷心より感謝を申し上げます。

この姉妹都市の友好関係が、レクサンド市、当別町の自治体間にとどまらず、日瑞両国の将来にわたる深い絆を、より一層確かなものとしていくことを祈念し、式辞といたします。

Tack så mycket!

当別町長 宮司 正毅

親愛なる宮司当別町長、当別町民の皆様、そして、来賓の皆様。



皆様の温かい歓迎とこれまでの協力連携、そして両都市間の長年にわたる実りある友情を祝うためにこうして当別町に集うことができたことに対し、改めて感謝いたします。

30年という年月は確かに長く、また短くもあります。私たちの二つの都市、二つの国は、それぞれに素晴らしい伝統と価値観を育んできた長い歴史をもち、このことは大いに誇りにすべきことです。しかし、私たちは共に歴史の流れの中で試練に晒され、世界の発展は私たちに恩恵も不利益ももたらしました。そして2017年の今、当別町とレクサンド市の姉妹都市提携30周年を祝う時、これまでに類を見ないほど、世界はグローバル化していることを互いに認め合えると思います。商品やサービスのやり取りは今まで以上に増え、私たち人間も、これまで以上に頻りに世界を往来しています。また、軍縮と平和に司られ、民主主義が世界に広がる時代を経験することもできました。しかし、友情と同様、何事も当然のこととして受け止めてはならないのです。そして今、世界で高まる政治的軍事的緊張に、私たちは失望の念を抱いて向き合っています。

この9月にレクサンド市で、当別町の皆さんから記念品として頂いた30本の素晴らしい桜の樹を植樹した際に、私は正にこのことについてお話ししました。レクサンド市民に向けて、今日の世界情勢の中では、姉妹都市交流の必要性が少なくなることはない、むしろもっと必要になる、と。私たちは二つの地方都市として向き合い、ある点では異なるけれど、多くの点ではとてもよく似ているということを理解し合うべきです。そして、似通う挑戦

に直面し、その解決策を見つけるために互いに協力し合うことが出来るということを理解することも必要です。私たちの共通の課題としては、高齢化社会問題や、機能する社会福祉制度の確立と維持や、環境気候問題などがあります。このような課題は、互いに対抗し合うよりは、世界の中で共に力を合わせて取り組む方が、より解決しやすくなるはずです。

この9月にはまた、私たちの長年にわたる姉妹都市交流事業に対して、日本の外務大臣表彰を受けるという栄誉にも与り、在スウェーデン日本大使閣下がホストとなり、素晴らしいセレモニーがストックホルムで行われました。その際、私は、二都市間の交流の歴史と功績を導ぶと同時に、未来に向けて準備することの大切さについてお話ししました。そのため、私は今回この記念行事に多くの青少年が参加していることに特に喜びを覚えます。彼らはこの姉妹都市交流事業の40周年、50周年、あるいはもっと先まで祝うことを、必ずや確実にしてくれることでしょう。

最後に、長年にわたりこの姉妹都市交流の進展と維持のために、その過程の一部となって貢献して下さった方々皆さんに、感謝と敬意の念を表したいと思います。宮司町長をはじめ歴代の市長・町長、すべての政治家や市・町職員の方、そしてこの姉妹都市交流に欠かすことが出来ないすべての市民・町民の皆さん、あらゆる市民活動グループや市民組織の皆さん、ありがとうございます！

レクサンド市長 ウルリカ・リリエベリイ



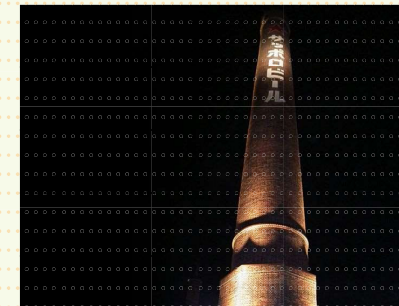
札幌市内視察&夕食パーティー

10月28日(土) 14:45 ~

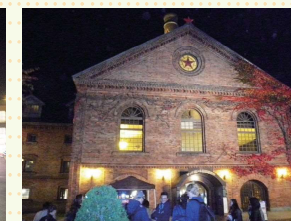
アリオ札幌・サッポロビール園 (参加者120名)

札幌市内の視察として東区にある大型ショッピングセンター「アリオ札幌」に行きました。

中には100円ショップで大量に商品を購入する訪問団や日本限定のスニーカーを購入する訪問団もありました。その後の夕食パーティーは、訪問団とホストファミリーを中心にサッポロビール園でジンギスカンを食べながらの交流を行いました。



Ario Sapporo & Sapporo Beer Garden ★



Dinner is Genghis Khan



I love it ♥

ディスカッション

10月28日(土) 12:30 ~

西当別コミュニティセンター (参加者100名)

北海道医療大学のプロデュースにより「高齢者の多世代との交流・協働」をテーマにしたディスカッションを行いました。北海道医療大学 浅香学長の挨拶の後、宮司町長とウルリカ・リリエベリ市市長からそれぞれ「まちづくりビジョン」について基調講演を行いました。

基調講演後には、両市町の代表者による取組み事例の発表、総合討論を行いました。

コーディネーター

北海道医療大学国際交流推進室 室長 安彦 善裕 氏
北海道医療大学地域連携推進センター 坂野 雄二 氏

《 事例発表内容 》

「地域の共生とは？誰もが安心できるまちづくり」
社会福祉法人ゆうゆう 中梶 慎太郎 氏

「北海道医療大学で学んだこと
～当別町住民の方々との関りを通じて」

北海道医療大学理学療法学科卒業生 北山 竜大 氏
同 4年 五十嵐 寛華 氏

「介護ケア」
介護ケア部門 部長 ウルリカ・ヤーズバック 氏

「レクサンド市における青少年の高齢者介護への関り」
オーケロー中学校代表 イーダ・ヒュースング 氏
同 マチルダ・ストランド 氏



スウェーデンヒルズ散策

10月29日(日) 8:30 ~
スウェーデンヒルズ (参加者70名)



スウェーデン交流センター視察後、レクサンド記念公園までスウェーデンヒルズの街並みを見ながら徒歩で移動しました。レクサンド記念公園では、20周年記念の際にレクサンド市から寄贈されたダーラヘスト(木製の馬【通称：レック】)の前で記念写真を撮りました。



20周年記念除幕式(平成19年6月17日)
友好の証としてレクサンド市から海を越えて
当別の地にきたダーラヘストを初披露。



スウェーデンヒルズ内散歩



スウェーデン交流センター視察





茶道

Japanese Calligraphy

Tea Ceremony



書道



文化交流

Cultural exchange

10月29日(日) 10:00 ~ 西当別コミュニティセンター (参加者140名)

日本の文化を理解してもらうとともに体験する場として交流事業を行いました。オープニングでは西川流舞踊教室当別鯉延会による日本舞踊が披露され、当別高校茶道部と書道部による体験事業、着物の着付けや折り紙などの体験も行いました。最後には当別音頭を守る会による当別音

頭が披露され、訪問団も輪に加わり全員で踊る姿が見られました。
※同時刻に一部の訪問団が予定していた航空自衛隊ヘリコプター体験搭乗は、当日悪天候のため中止となりました。

つるし雛



日本舞踊



当別音頭



Tobetsu Ondo



折り紙

Origami

Kimono



着物の着付け



スポーツ交流

10月29日(日) 13:00 ~

あいあい公園・総合体育館 (参加者150名)

あいあい公園では、30周年を記念したパークゴルフ大会が開催され、訪問団16名と当別町民29名が参加しました。レクサンド市と当別町からの参加者が一緒にコースを周り、コミュニケーションを取りながらプレイを楽しみ、訪問団からはホールインワンも出ました。

総合体育館では、日本の武道である弓道、剣道、柔道の見学、スポーツ吹き矢の体験を行いました。伝統武道としての心得などの説明を受けた後、演舞や基本稽古の見学を行い、スポーツ吹き矢は実際に的に向かって矢を放つ体験を行い、大変盛り上がりました。



パークゴルフ - Park Golf -



弓道 - Kyudo -



スポーツ吹き矢 - Sport Blowgun -



柔道 - Judo -



剣道 - Kendo -



See you Again



30th Anniversary Sports Interchange

フェアウェルパーティー

10月29日(日) 17:00 ~ 田西会館 (参加者150名)

最後の公式行事となるフェアウェルパーティーは、約150名が参加した中で行われました。30周年記念事業実行委員会 山田明実行委員長の挨拶から始まり、今後より一層の友好を祈念した鏡割り、アトラクションとして訪問団音楽学校生徒によるバイオリンの演奏が行われました。

参加者全員で30周年記念事業を映像で振り返り、ホームステイを体験した訪問団からはホストファミリーへ4日間お世話になった感謝の言葉が伝えられ、別れを惜しみ会場内がしんみりとする場面もありました。

最後のウルリカ・リリエベリ市長からのお別れの挨拶では「5年後の35周年記念はレクサンド市でお待ちしております」とのお話があり、これからの交流の発展と再会を誓い合いました。訪問団が退場する際には、一人一人に山田実行委員長と宮司町長からプレゼントが手渡されました。

